

第6章 瀬戸内海スローツーリズムの成果と今後の展開

本年度は下記のような成果を得たが、これを踏まえ今後は次のような展開を図ることが求められる。

(1) 地域資源の洗い出し、地域課題やニーズ把握

【今年度の成果】

- 地域研究会を12地域に設置し、地域資源の洗い出しを行った。
- スローツーリズムのニーズについて、アンケート調査等で把握した。

【今後の展開】

- 洗い出した地域資源を基にスローツーリズムの創出を図るため、各地域において地域研究会の活動を継続・発展させていく必要がある。

竹原では、地域研究会のコアメンバーを中心に、地域の観光関連事業者やまちづくりに関連する組織を集め、「スローツーリズムの手引き」を活用したセミナーの開催が企画されている。また、他の地域でも、民間主導によるコンソーシアム化（岡山等）、NPO法人と商工会議所との連携（倉敷児島等）、観光ボランティア組織と行政との連携（呉等）による推進組織の継続・発展が企画されていることから、これらを着実なものとするように支援していくことが求められる。

(2) 環境負荷低減に配慮した広域集客アイデアの検討

【今年度の成果】

- 12地域において、スローツーリズムによる環境負荷低減に配慮した広域集客アイデアを検討し、パンフレットとウェブサイト用のコンテンツを作成した。
- 地域からのスローツーリズム創出の方法やノウハウを集約化して、「スローツーリズムの手引き」を作成した。

【今後の展開】

- スローツーリズムのコンテンツをまとめた「パンフレット」と「スローツーリズムの手引き」を印刷のうえ、関係機関に配布し、瀬戸内海スローツーリズムの情報発信とスローツーリズム創出を支援する。

推進主体：社団法人 中国地方総合研究センター

パンフの配布先：旅行エージェント、観光協会、空港、港、県・市町村等

手引きの配布先：12地域研究会の実践者、瀬戸内海沿岸の自治体及びスローツーリズムの関係者、本調査の委員等

また、中国地域観光推進協議会が管理するウェブサイト「まち歩き中国ナビ」に、スローツーリズムのコンテンツを掲載する。

- 地域からのスローツーリズムの創出や事業化に向けて、国・県等の支援事業の活用を図る。

推進主体：国・県・市町村・地域研究会

(3) 広域連携による集客プログラムの検討

【今年度の成果】

- 広域連携の場として、12 地域研究会の情報交換・交流の場(地域研究会合同会議)を 2 回開催した。
- 地域研究会合同会議で、広域連携による集客プログラムとして瀬戸内海スローツーリズムのモデルコースを作成した。

【今後の展開】

- 平成 18 年度も引き続き合同会議を開催し、地域間の情報交流の促進や、スローツーリズムと旅行エージェントとのマッチングを進める。
推進主体：中国経済連合会
開催時期：平成 18 年度 秋～冬
- 瀬戸内海各地域間の定期的な情報交流とネットワーク化を目指して、「瀬戸内海スローツーリズム通信（ニュースレター）」を発行する。
推進主体：社団法人 中国地方総合研究センター
発行回数：年 3～4 回程度
内容：本年度の調査成果の普及、各種支援事業の紹介、スローツーリズムを推進する人・組織の紹介等
配布先：12 地域研究会の実践者、瀬戸内海沿岸の自治体及びスローツーリズムの関係者、本調査の委員等

(4) 環境負荷低減型の集客交流事業の実証実験

【今年度の成果】

- モデルコースの中から 1 コースを選定し、社会実験モニターツアーを実施した。

【今後の展開】

- モニターツアー実施地域である松山・呉・竹原間の連携気運が高まっていることから、当地域の広域連携を進めると共に、この成果を各地域に還元していく。

(5) 実証実験の結果検証と次年度の施策検討

【今年度の成果】

- 社会実験モニターツアーを実施し、スローツーリズムの評価と環境負荷低減量の計測を行った。
- スローツーリズムを推進した場合、瀬戸内海地域としての環境負荷低減量を定量的に推計した。

【今後の展開】

- 社会実験の評価を、地域からのスローツーリズムの創出と事業化に活かすため、その成果と課題をニュースレターなどを通じて各地域に還元する。
- 瀬戸内海スローツーリズムの推進組織のあり方を検討する。
推進主体：中国経済連合会
検討方法：県毎に自治体や地域研究会の主要メンバーを集め意見交換会を実施する。
本調査委員会メンバーからの意見聴取を行う。
先進事例調査を実施。